

町議会公行政視察研修報告

9月17日から19日の3日間、町議会の行政視察が行われ、石川県輪島市と津幡町の2箇所を視察いたしました。その視察研修の内容について報告します。

■石川県輪島市(6次産業化支援事業)

(厚生産業常任委員会副委員長)

渡辺博文

輪島市は豊かな緑と海に囲まれた人口約3万人の街です。中世に曹洞宗の本山「總持寺」が開かれ、北前船の世紀には「親の湊」と呼ばれ海上交通の要衝として栄えるとともに、江戸中期以降は漆器業(輪島塗)が盛んになりました。

現在、「漆の里」「禅の里」「平家の郷」の3つの里(郷)構想を前面に魅力を発信しています。人口は昭和35年の国勢調査では5万7244人でしたが、平成26年9月現在においては2万9574人と、実に48%も減少しています。原因は若年層の都市圏への流出、出生率低下、少子化、雇用機会提供不十分など、どこの田舎町でも共通の理由を挙げています。今回の視察テーマは「輪島市6次産業支援事業について」です。



千牧田 (輪島市)

■石川県津幡町(定住促進支援制度)

(総務文教常任委員会副委員長)

鎌上 徹

津幡町は石川県のほぼ中央に位置し、金沢市から鉄道では10分、車なら国道で20分、北陸道を使えば10分と非常に便利な立地となっており、人口3万6000人と中山町の約3倍ではあるが、当町も同じように主要都市への通勤などでは便利な立地となっており、比較しやすい町といえます。

定住促進策は自然増対策と社会増対策の2本立てで行っています。自然増対策としては、結婚相談事業、婚活支援事業補助金が挙げられます。

結婚相談事業は結婚推進員による結婚相談や仲介があり、推進員

初めに輪島市役所にお邪魔し、パワーポイントでの説明を受けました。従来からの農林水産業・地場産業をそのまま続けていたのでは、年月の経過とともにジリ貧になってしまうのは、どこでも共通のことですが、輪島市にうらやましい成功例がありました。輪島市役所からバスで十数分のところに『白米千枚田』があります。昔田舎であちこちに見かけられた、いわゆる『棚田』です。現在も少数残っている箇所も存在しますが、ここにはその数1004枚。まさしく1000枚田です。近隣4市町と一致協力し『能登の里山里海』を世界農業遺産認定にこぎつけました。それを機に千枚田のオーナー制度を実施し、『白米千枚田』がよく見える位置に駐車場とスーパークフェや売店カフェ等をオープンさせています。そこでは終わらず、太陽光発電充電式のLED照明

『ペットボトル』を地元の業者と共に1個数百円で開発、1000枚の田んぼのあぜ道に3万個設置しイルミネーションを行った結果、『太陽光発電LEDによる最大ディスプレイ』でギネス世界記録に認定されたのだそうです。現在、売店やカフェがある展望台には、日に700人とも1000人とも言える観光客が訪れるそうです。輪島市役所で説明を受けた後、現地視察を行いました。田んぼは稲刈りに入ったばかりで、観光客がわんさか来ていました。売店ではこの棚田で収穫された米が販売されていました。1キロ当たり千円で飛ぶように売れるということですが、ほぼ全量に近いものが予約販売で販売されるということ。私たちが視察したのは午前11時頃で、ギネス認定のLEDイルミネーションが見られなかったのは大変残念でありましたが、言っ

は県に登録している「縁結びiss」が対象となりプライバシーの問題にも気を使っています。昔ながらの仲人さんを推進員として登録し、組織化して結婚相談をする取り組みは、登録者が15名となっております。将来町内に在住、または結婚後、津幡町で生活をしてみたいと考えている独身男女からの登録や申し込み相談を受け、成婚・定住となった場合は成功報酬として1組当たり3万円を交付するとなっておりますが、今年の5月にスタートしてまだ実績は無いとのこと。

婚活支援事業補助金は婚活イベントを行う団体に対して最大10万円の補助金を交付しています。今年の7月に行われた婚活パーティーには男性33名、女性30名が参加し、11組のカップルが成立。内1組が来年度結婚予定になっているそうです。中山町でも2つの団体に補助金を出し、婚活パーティーを行っています。津幡町ほどのカップル成立とはなっていませんが、今後に期待したいところでありです。

定住施策の社会増対策は、結婚祝い金制度、新規雇用促進奨励金

制度、空き家バンク利用奨励金制度、農村定住奨励金制度、住宅取得奨励金と5種類の施策からなっています。

結婚祝い金制度は町内に定住する新婚夫婦に対する祝い金で、条件により最大10万円が交付されています。

新規雇用促進奨励金制度は事業所の新設、増設に伴い、町民を新規雇用した事業者に対して、新規雇用1人につき20万円が交付されています。

空き家バンク利用奨励金制度は空き家バンク制度により転入し一定条件を満たす夫婦に対して、空き家購入の場合最大50万、空き家賃借の場合最大24万円の交付。

農村定住奨励金制度は農山村の活力向上のために、対象集落で住宅を所得した夫婦、親子世帯に最大40万円が交付されています。

住宅取得奨励金は若い世代の流出や、少子高齢化の進展などによる人口減少に歯止めをかけるため、戸建て住宅を新築、購入、増改築した場合に借入金額に応じた交付金を5年間継続して交付。基本額、最大100万円、さらに加算額ありとなっております。



輪島市

てみれば元々はただの田んぼ。それをあそこまで観光地に作り上げてしまったそのパワーには驚くばかりです。

6次産業化の支援だけでなく、事業化に取り組む関係者の意欲が重要だと実感させられました。このことは、当町においても参考にできる点であり、6次産業化に向けた仕掛けづくりも必要ではないかと考えます。

『白米千枚田』夜間イルミネーションの様子が輪島市ホームページのトップページ (<http://www.city.wajima.shikawa.jp>) に載っています。ぜひご覧ください。



津幡町の予算額は中山町の約3倍で、予算から見れば同等のことが出来るかはわかりませんが、県内の市町村でも住宅取得の補助金等を出している所も出ています。中山町も何かしらの制度を作っていないと隣接市への人口流出を止めることができなくなるのではと心配しています。

定住奨励金も策の一つではあるが、町内への雇用の場を増やすために西部工業団地への工場の誘致や、町民にとって魅力ある町づくりにこれまでに以上を努めることが必要だと思えます。

特に工業団地への誘致は必須で、現在天童市、山形市にも新たな工業団地が造成されている中、誘致活動を活性化させ、新しい雇用の場ができることを願っています。



津幡町